

中山町食育・地産地消推進計画（素案）

平成26年 月

中山町

目 次

1	中山町食育・地産地消推進計画の策定にあたって	
(1)	計画の趣旨等	2
(2)	計画の位置づけ	2
(3)	計画の期間	2
2	食に関する現状と課題	
(1)	近年の食生活	3
(2)	健康づくり	8
(3)	食の安全・安心	9
(4)	食の生産	1 2
(5)	食文化の継承	1 3
(6)	町民の食への意識	1 4
3	食育・地産地消推進の柱と方向と施策	
(1)	食における健康づくり	1 8
(2)	地産地消と安全・安心な食	1 9
(3)	食文化の継承	2 0
(4)	食を楽しむ、食に感謝する	2 1
(5)	6次産業化の推進	2 2
4	食育・地産地消の目標	
(1)	重点目標	2 3
(2)	中山町食育・地産地消推進計画の数値目標	2 3
5	資料	
(1)	中山町でとれる主な農産物	2 4
(2)	食育・地産地消アンケート調査の概要	2 5
(3)	山形県食育・地産地消推進計画における数値目標	3 1
(4)	関係用語	3 2
	中山町食育・地産地消推進協議会設置規約、協議会委員名簿	3 3

1 中山町食育・地産地消推進計画の策定にあたって

(1) 計画の趣旨

食は、健康な体と豊かな心をはぐくみ、生きていく力を与えてくれるとともに、楽しみや喜びを与えてくれます。

しかしながら、近年の社会情勢の大きな変化により、ライフスタイル（※１）も大きく様変わりしました。食生活もライフスタイルの変化に合わせ、多種多様のものが登場しています。しかし、結果として中食（なかしょく）（※２）や外食などで、食事を済ませることが増え、食習慣の乱れや偏食などにより、生活習慣病の増加などの問題が生じています。さらに、食品の偽装表示や無登録農薬の使用などの食の安全に関する問題が、食への不信感を深めています。

こうした社会情勢を背景に、国では、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむことができるよう、食育を総合的かつ計画的に推進することを目的として、平成１７年７月に「食育基本法」を制定しました。食育基本法では、食育とは、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」と定められています。

また、国産の農林水産物の消費を拡大する地産地消等の促進に関する施策を総合的に推進することを目的として、平成２３年３月に「地域資源を活用した農林漁業等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」（通称：六次産業化法）を制定しました。

本県においても食育（※３）と地産地消（※４）の一体的推進を図るため、新たな食育推進計画及び地産地消推進計画として、平成２３年３月に「山形県食育・地産地消推進計画」を策定し、計画的に推進しています。

こうしたことを踏まえ、当町の「食」のありかたを改めて見つめ直し、望ましい食生活を実践していくことにより、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむことができる社会の実現に向けて、当町における「食育」と「地産地消」を一体的に推進するために本計画を策定します。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法第１８条に規定する「市町村食育推進計画」並びに地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出など及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律第４１条に規定する「地域の農林水産物の利用の促進についての計画」と位置づけます。

(3) 計画の期間

本計画の期間は、平成２６年度を初年度とし、平成３０年度を目標年度とする５カ年計画とします。なお、社会情勢の変化により、必要に応じて見直しを行うものとします。

2 食に関する現状と課題

(1) 近年の食生活

全国的にみて三世代同居より核家族の割合が増加しています。当町でも、人口は減少しているが、世帯数は増えていることから同じ傾向にあると思われます。社会情勢の変化やライフスタイルの多様化により家族間の生活時間にズレが生じ、家族と一緒に食事をとることが困難な家庭や子どもの生活に十分関わることをできない家庭があり、食習慣においても外食をはじめ惣菜などの調理済食品やお弁当といった中食が定着し、主食（※5）、主菜、副菜のそろった食生活が減少しています。メタボリックシンドローム（※6）や生活習慣病（※7）の大きな要因は好ましくない生活習慣の積み重ねにあり、食事のとり方や運動量など毎日の生活を見直すことが必要となります。

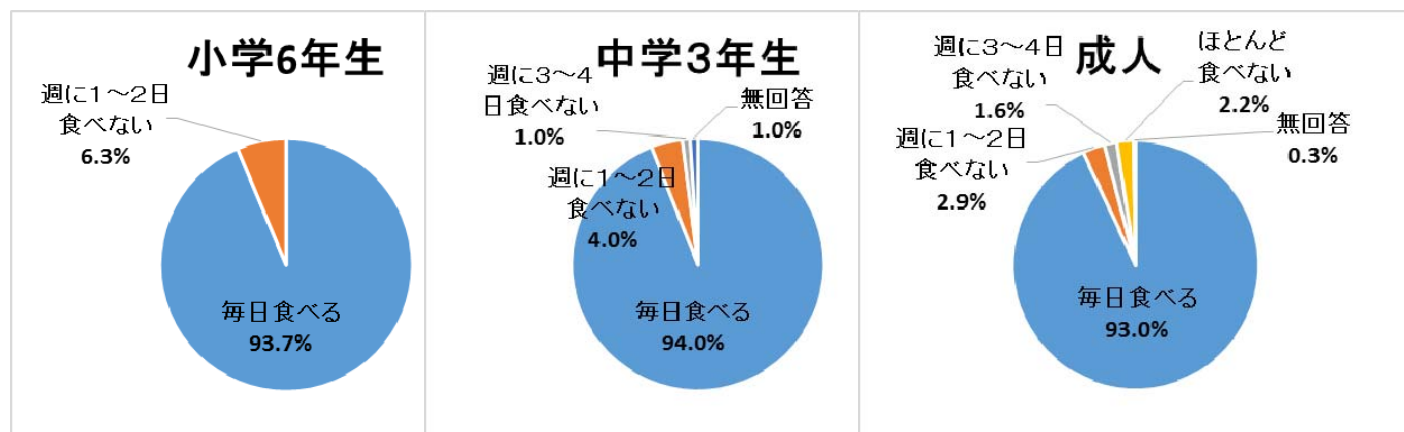
中山町では朝食を毎日食べている人の割合が高く、小中学生・成人ともに9割を超えており、小中学生で「ほとんど食べない」は0%となっています。しかし、朝食の内容については、主食、主菜、副菜がそろった食事を食べている人は7割を超えているものの、残り3割については栄養のバランスが取れていない現状です。小中学生の一人で朝食を食べる割合も成人より高く、家庭においても一人で食べる孤食、家族がそれぞれ別なものを食べる個食など「食」のあり方が変化していることに伴い、食事のマナーや食べ物に感謝する気持ちなど基本的な食習慣を身につける機会が減少していることが危惧されます。

問 朝食を毎日食べていますか

項 目	小学6年		中学3年		成 人	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
1. 毎日食べる	104	93.7%	94	94.0%	678	93.0%
2. 週に1～2日食べない	7	6.3%	4	4.0%	21	2.9%
3. 週に3～4日食べない	0	0.0%	1	1.0%	12	1.6%
4. ほとんど食べない	0	0.0%	0	0.0%	16	2.2%
無回答	0	0.0%	1	1.0%	2	0.3%
合 計	111	100.0%	100	100.0%	729	100.0%

※小学6年生、中学3年生のアンケート総数と合計が合わないのは、学年不明が1名、学年・性別不明が2名いるためです。

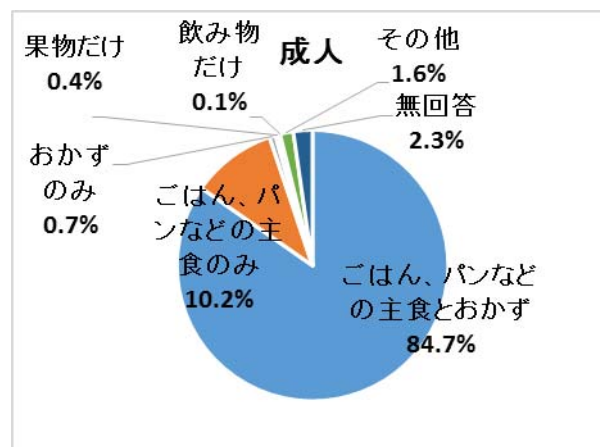
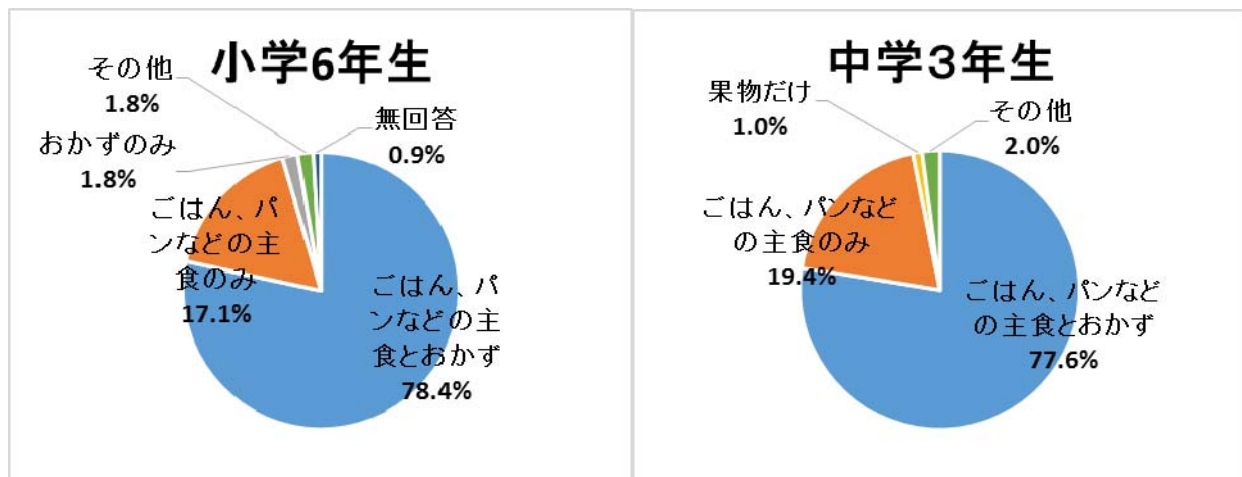
食育・地産地消アンケート結果



問 朝食はどのような内容がもっとも多いですか（1. 毎日食べる 2. 週 1～2 日食べないと回答した人）

項 目	小学 6 年		中学 3 年		成 人	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
1. ごはん、パンなどの主食とおかず	87	78.4%	76	77.6%	592	84.7%
2. ごはん、パンなどの主食のみ	19	17.1%	19	19.4%	71	10.2%
3. おかずのみ	2	1.8%	0	0.0%	5	0.7%
4. 果物だけ	0	0.0%	1	1.0%	3	0.4%
5. 飲み物だけ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
6. その他	2	1.8%	2	2.0%	11	1.6%
無回答	1	0.9%	0	0.0%	16	2.3%
合 計	111	100.0%	98	100.0%	699	100.0%

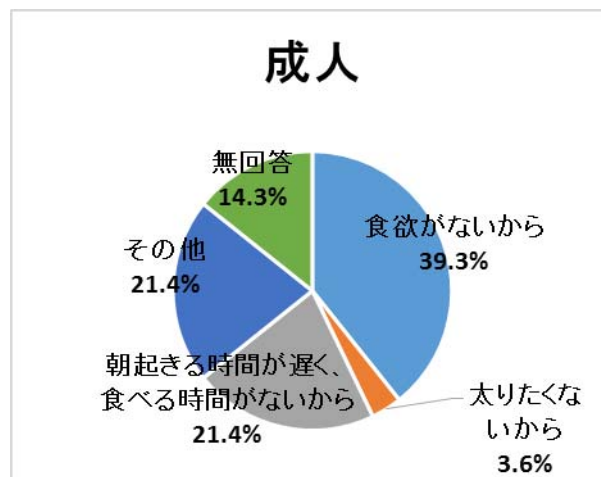
食育・地産地消アンケート結果



問 朝食を食べない理由はなんですか（3. 週に3～4日食べない4. ほとんど食べないと回答した人）

項 目	小学6年		中学3年		成 人	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
1. 食欲がないから	0	0.0%	0	0.0%	11	39.3%
2. 太りたくないから	0	0.0%	0	0.0%	1	3.6%
3. 朝起きる時間が遅く、食べる時間がないから	0	0.0%	0	0.0%	6	21.4%
4. 朝食が用意されていないから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. その他	0	0.0%	1	100.0%	6	21.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	4	14.3%
合 計	0	0.0%	1	100.0%	28	100.0%

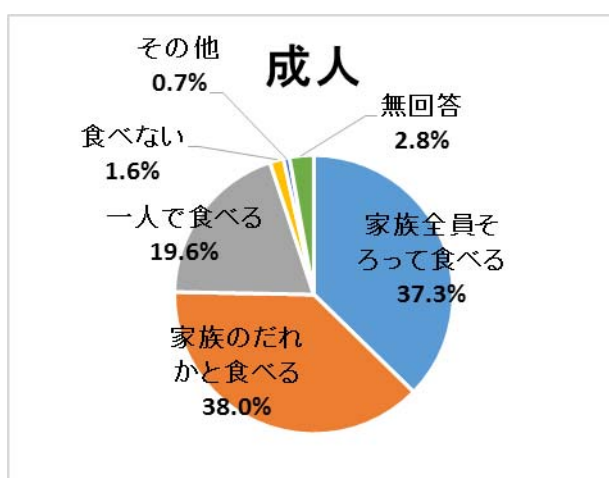
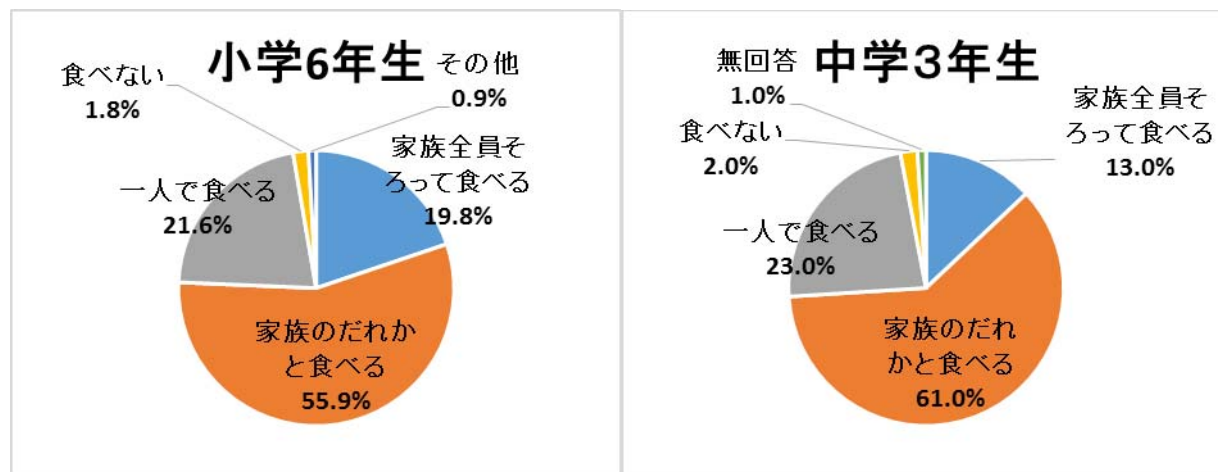
食育・地産地消アンケート結果



問 朝食は家族そろって食べていますか

項 目	小学6年		中学3年		成 人	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
1. 家族全員そろって食べる	22	19.8%	13	13.0%	272	37.3%
2. 家族のだれかと食べる	62	55.9%	61	61.0%	277	38.0%
3. 一人で食べる	24	21.6%	23	23.0%	143	19.6%
4. 食べない	2	1.8%	2	2.0%	12	1.6%
5. その他	1	0.9%	0	0.0%	5	0.7%
無回答	0	0.0%	1	1.0%	20	2.8%
合 計	111	100.0%	100	100.0%	729	100.0%

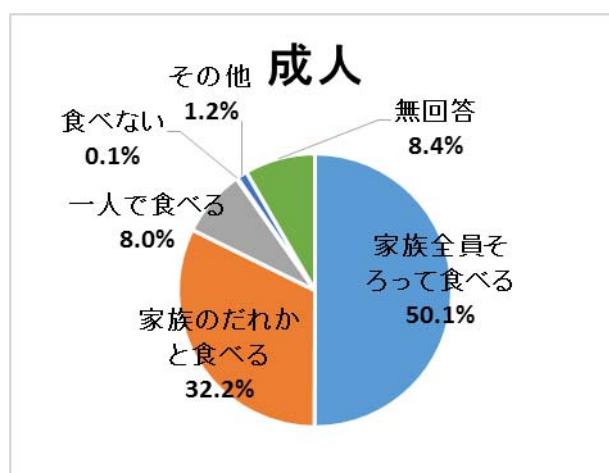
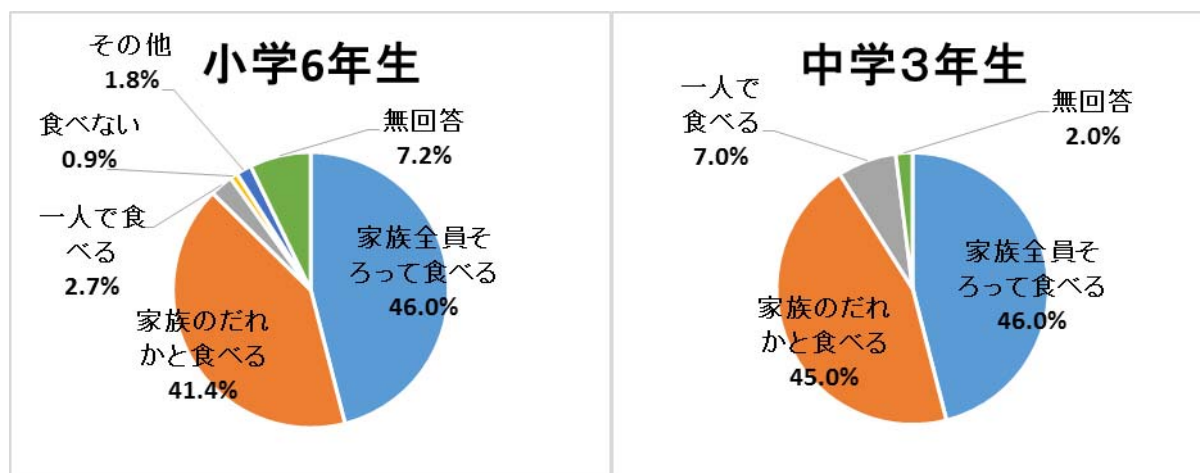
食育・地産地消アンケート結果



問 タ食は家族そろって食べていますか

項 目	小学6年		中学3年		成 人	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
1. 家族全員そろって食べる	51	46.0%	46	46.0%	365	50.1%
2. 家族のだれかと食べる	46	41.4%	45	45.0%	235	32.2%
3. 一人で食べる	3	2.7%	7	7.0%	58	8.0%
4. 食べない	1	0.9%	0	0.0%	1	0.1%
5. その他	2	1.8%	0	0.0%	9	1.2%
無回答	8	7.2%	2	2.0%	61	8.4%
合 計	111	100.0%	100	100.0%	729	100.0%

食育・地産地消アンケート結果



(2) 健康づくり

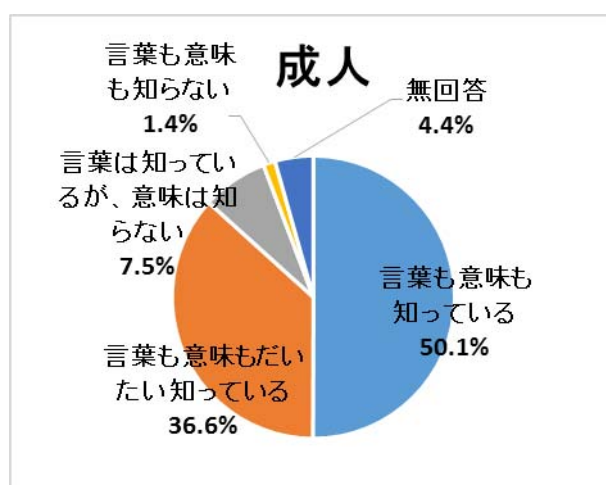
社会構造の変化や町民の価値観の多様化を背景に、栄養の偏りや不規則な食習慣、肥満や生活習慣病の増加、過度のやせ志向などの問題があります。不規則な食生活や運動不足などは肥満をもたらし、糖尿病、脂質異常症、高血圧など多くの生活習慣病の温床となります。また、やせ過ぎは、貧血や月経異常、骨粗鬆症などに繋がります。この連鎖を断ち切るためにも自分の「適正なエネルギー量」を知り、バランスの取れた食事を身につける必要があります。

成人アンケート結果では「メタボリックシンドロームの言葉も意味も知っている」、「言葉も意味もだいたい知っている」を合わせると8割を超え、メタボリックシンドロームについて理解が得られている現状です。しかし、「毎日野菜を食べていますか」の回答では「1日3回食べる」人は4割と毎食野菜を食べる人の割合が低く、生活習慣病を予防する面からも野菜を積極的に取り入れるよう推進していく必要があります。

問 メタボリックシンドローム（内臓肥満型症候群）という言葉やその意味を知っていますか

項 目	成 人	
	人 数	構成比
1. 言葉も意味も知っている	365	50.1%
2. 言葉も意味もだいたい知っている	267	36.6%
3. 言葉は知っているが、意味は知らない	55	7.5%
4. 言葉も意味も知らない	10	1.4%
無回答	32	4.4%
合 計	729	100.0%

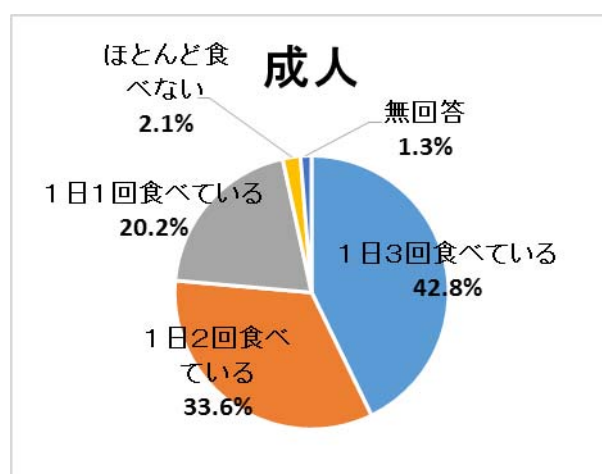
食育・地産地消アンケート結果



問 毎日野菜を食べていますか

項 目	成 人	
	人 数	構成比
1. 1日3回食べる	312	42.8%
2. 1日2回食べる	245	33.6%
3. 1日1回食べる	147	20.2%
4. ほとんど食べない	15	2.1%
無回答	10	1.3%
合 計	729	100.0%

食育・地産地消アンケート結果



(3) 食の安全・安心

食中毒やBSE（牛海綿状脳症）（※8）、鳥インフルエンザ（※9）などの発生や国内外の食品の安全性にかかわる事案を契機として、食品の安全性に対する消費者の関心が高まっています。

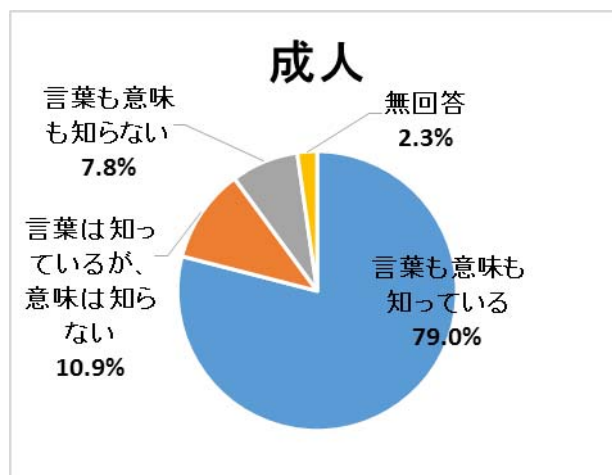
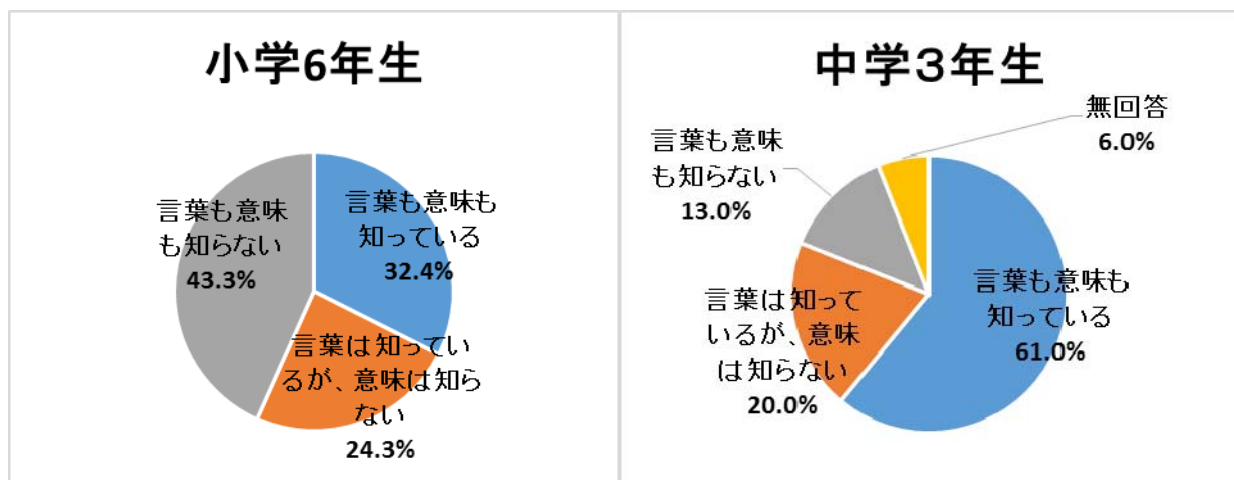
食品の安全性が損なわれれば、人々の健康に影響を及ぼし、時には重大な被害を生じさせる恐れがあることから、食品の安全性と町民の食に対する知識と理解を深めることが求められています。食の安全・安心のためには、消費者自らが食の安全に関心を持ち、食に関する正しい知識を身につけるとともに、町民・生産者・食品関連事業者及び行政が連携を図り、相互理解と信頼関係を構築することが重要です。併せて、安全・安心な地元の食材を地元で消費する地産地消の取組みを拡大していく必要があります。

アンケート結果では、地産地消の「言葉も意味も知っている」人は、成人で約8割となっていますが、中学生は約6割、小学生は約3割と低く、さらに地産地消については「興味関心がある」又は「どちらかといえば興味関心がある」と回答した人は、成人で8割を超えていますが、小中学生は3割を下回る結果となっており、地産地消に関する興味関心が低い状況となっております。

問 地産地消という言葉や意味を知っていますか

項 目	小学6年		中学3年		成 人	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
1. 言葉も意味も知っている	36	32.4%	61	61.0%	576	79.0%
2. 言葉は知っているが、意味は知らない	27	24.3%	20	20.0%	79	10.9%
3. 言葉も意味も知らない	48	43.3%	13	13.0%	57	7.8%
無回答	0	0.0%	6	6.0%	17	2.3%
合 計	111	100.0%	100	100.0%	729	100.0%

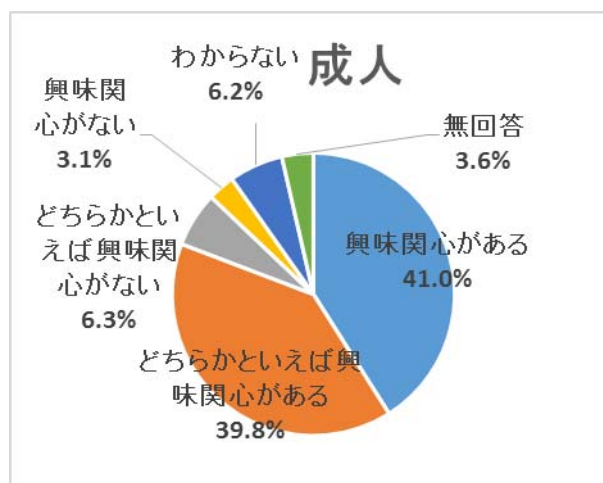
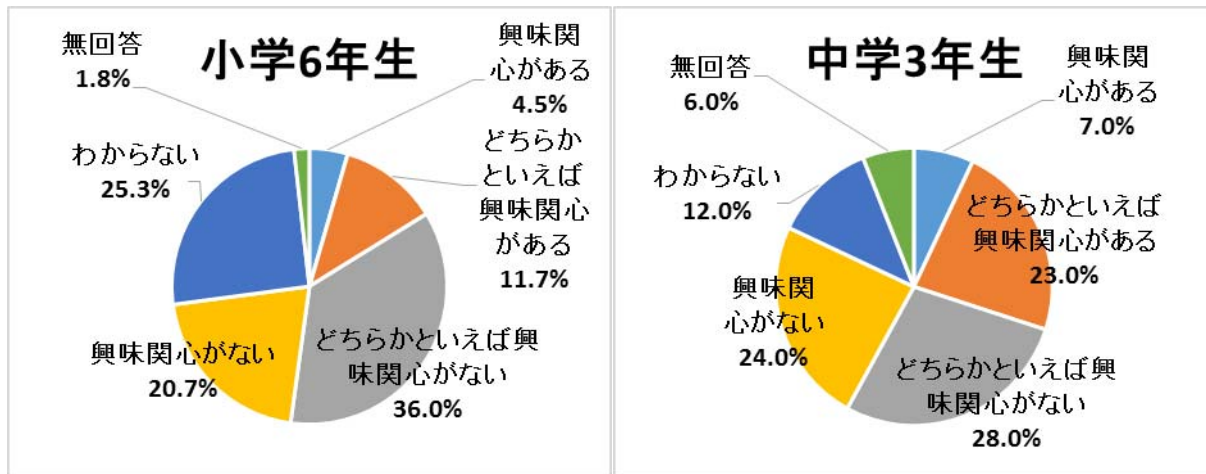
食育・地産地消アンケート結果



問 地産地消に興味関心がありますか

項 目	小学6年		中学3年		成 人	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
1. 興味関心がある	5	4.5%	7	7.0%	299	41.0%
2. どちらかといえば興味関心がある	13	11.7%	23	23.0%	290	39.8%
3. どちらかといえば興味関心がない	40	36.0%	28	28.0%	46	6.3%
4. 興味関心がない	23	20.7%	24	24.0%	23	3.1%
5. わからない	28	25.3%	12	12.0%	45	6.2%
無回答	2	1.8%	6	6.0%	26	3.6%
合 計	111	100.0%	100	100.0%	729	100.0%

食育・地産地消アンケート結果



(4) 食の生産

本県の食料自給率（※10）は、概ね130%前後で推移し、平成22年度は北海道、秋田県に次いで全国第3位と高い水準です。しかしながら、肉、魚介類などの多くを他県産、外国産に頼っており、米を除くと自給率は24%に過ぎない状況となっています。

米は町農業の基幹作物に位置付けており、化学肥料や農薬を減らした環境保全型農業による米の生産などの取組みが進められています。

また、小中学校等の教育機関では、稲作や畑作の体験学習を授業に取り入れ、作り手に対する感謝の気持ちと食べ物を大切にする心を育む取組みを行っており、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動に理解を深めています。

今後においても、食と農との関わりを学ぶ体験学習の推進を図り、当町の農業に対する関心を高めるとともに、魅力ある産業に育てていくことが重要です。

(5) 食文化の継承

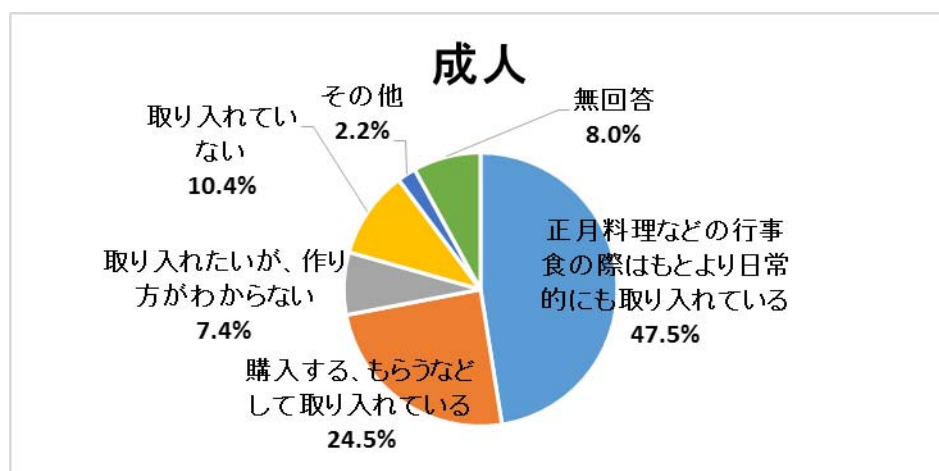
郷土料理（※11）や伝統料理はその地域で伝えられ、食べ継がれてきたものです。地域の特産物を使用する料理が多く、地域の恵みが活かされています。気候、風土、文化、産業などにも繋がります。さらに、郷土愛を育み、地域社会を構築するうえで大きな役割を果たしてきています。しかし、核家族化や外食の普及、地域行事が減少し知識と経験を伝承していく機会が少なくなってきました。そのため、保育所や幼稚園、学校の給食など様々な機会を通し、郷土料理や伝統料理にふれることで町民一人一人が先人の知恵や地域の良さを理解し、次世代へ繋いでいくことが大切です。

成人アンケート結果では、「郷土料理や伝統料理を家庭の食卓に取り入れていますか」の回答で「正月料理などの行事食の際はもとより日常的にも取り入れている」は5割未満、「作り方がわからない」又は「取り入れていない」が2割近くと、郷土料理や伝統料理を作る機会や食べる機会が減っています。学校、幼稚園、保育園の配布物や町広報誌を活用し、若い世代に食文化を継承し、郷土愛を育んでいく必要があります。

問 郷土料理や伝統料理を家庭の食卓に取り入れていますか

項 目	成 人	
	人 数	構成比
1. 正月料理などの行事食の際はもとより日常的にも取り入れている	346	47.5%
2. 購入する、もらうなどして、取り入れている	179	24.5%
3. 取り入れたいが、作り方がわからない	54	7.4%
4. 取り入れていない	76	10.4%
5. その他	16	2.2%
無回答	58	8.0%
合 計	729	100.0%

食育・地産地消アンケート結果



(6) 町民の食への意識

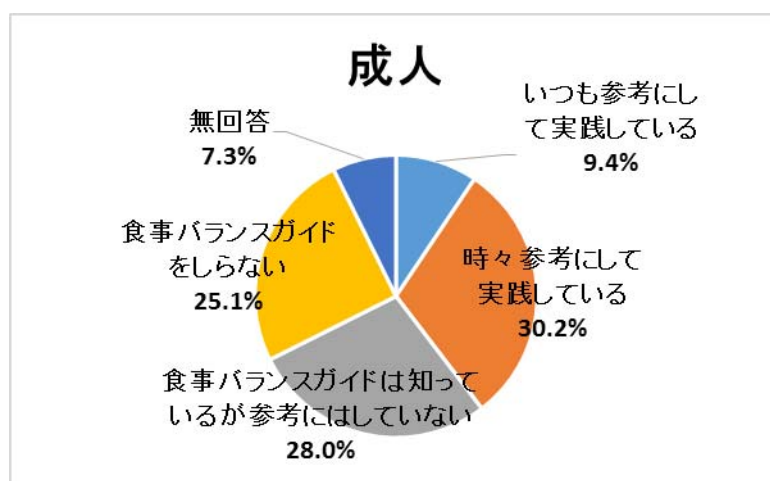
成人アンケートにおいて、「健全な食生活を実践するために『食事バランスガイド（※12）』を参考にしていますか」の回答では「いつも参考にして実践している」という人は1割にも達していない状況で、「食事バランスガイド」が上手く活用されていないのが現状のようです。食育について、成人の6割近くが「言葉も意味も知っている」と回答しています。一方、小中学生の8割強が「言葉は知っている」ものの、「意味を知っている」という回答は4割に満たない状況です。

学校、幼稚園、保育園の配布物の活用や町広報誌による食育に関する取組みを紹介することで、食育に興味関心を持つよう働きかける必要があります。また、成人アンケートで食材の購入の際、重視していることの回答では「鮮度（消費期限・賞味期限）」、「産地」、「値段」の順になっており、新鮮で安全なもので価格を重視して購入しているようです。

問 健全な食生活を実践するために、「食事バランスガイド」を参考にしていますか

項 目	成 人	
	人 数	構成比
1. いつも参考にして実践している	69	9.4%
2. 時々参考にして実践している	220	30.2%
3. 「食事バランスガイド」は知っているが、参考にしたことがない	204	28.0%
4. 「食事バランスガイド」を知らない	183	25.1%
無回答	53	7.3%
合 計	729	100.0%

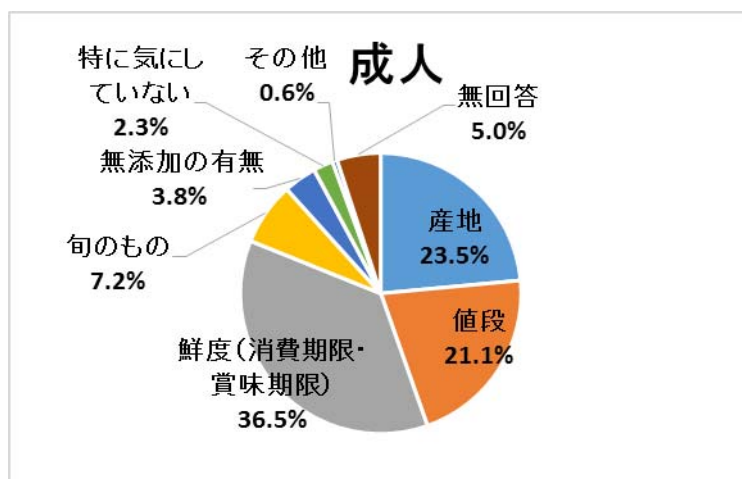
食育・地産地消アンケート結果



問 食材を購入する際、重視していることはありますか（2つ選択）

項 目	成 人	
	人 数	構成比
1. 産地	290	23.5%
2. 値段	260	21.1%
3. 鮮度（消費期限・賞味期限）	450	36.5%
4. 旬のもの	89	7.2%
5. 無添加の有無	47	3.8%
6. 特に気にしていない	28	2.3%
7. その他	7	0.6%
無回答	62	5.0%
合 計	1,233	100.0%

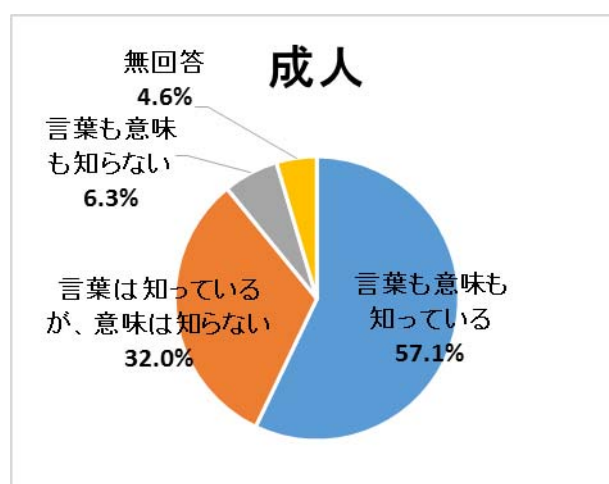
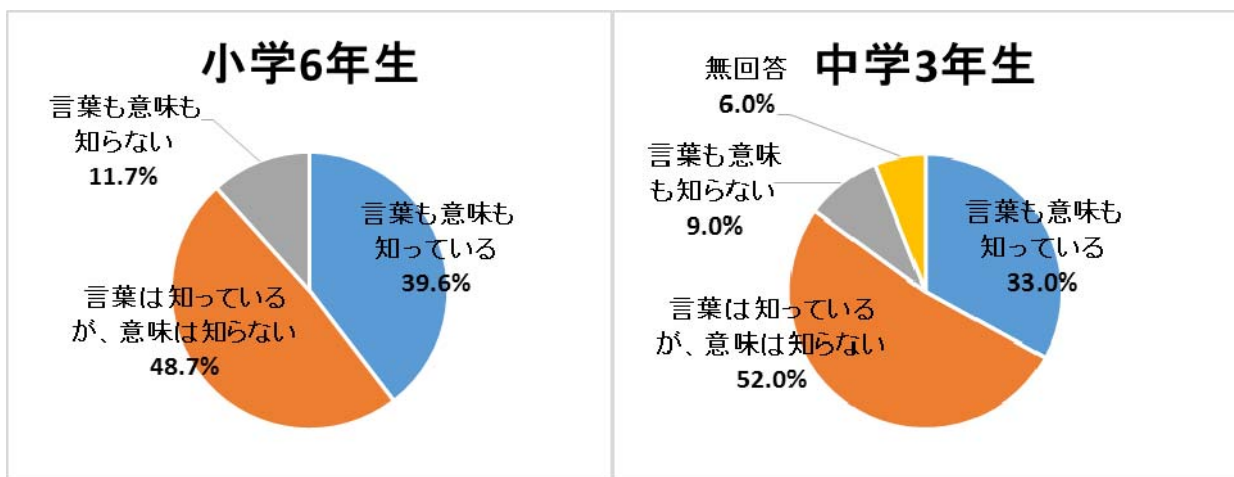
食育・地産地消アンケート結果



問 食育という言葉や意味を知っていますか

項 目	小学6年		中学3年		成 人	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
1. 言葉も意味も知っている	44	39.6%	33	33.0%	416	57.1%
2. 言葉は知っているが、意味は知らない	54	48.7%	52	52.0%	233	32.0%
3. 言葉も意味も知らない	13	11.7%	9	9.0%	46	6.3%
無回答	0	0.0%	6	6.0%	34	4.6%
合 計	111	100.0%	100	100.0%	729	100.0%

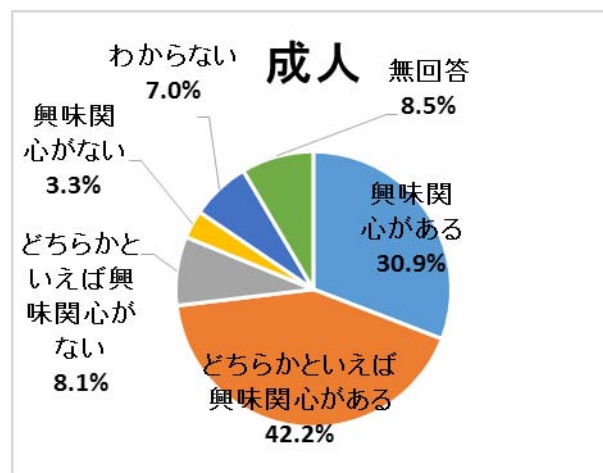
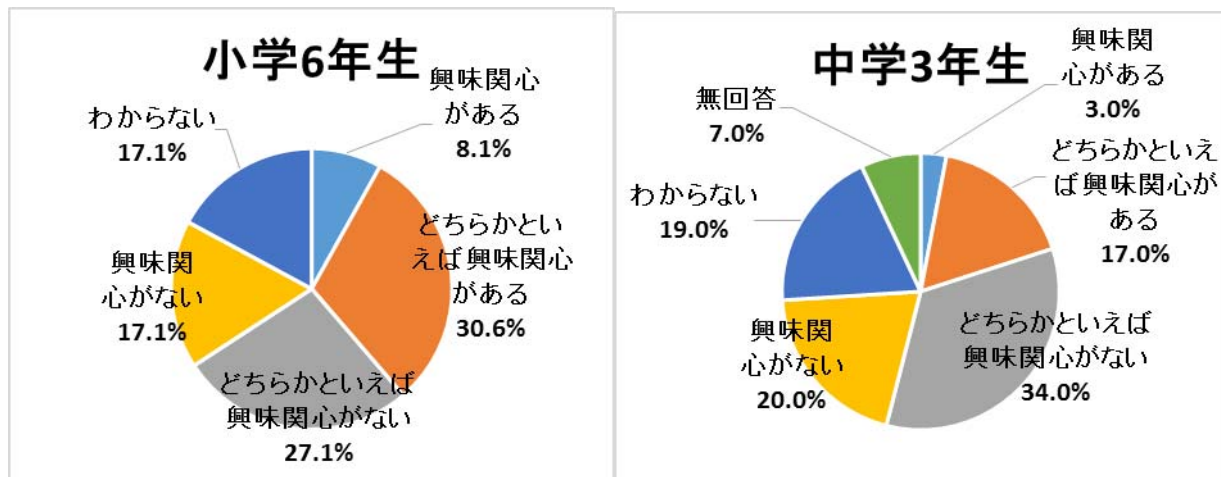
食育・地産地消アンケート結果



問 食育に興味関心がありますか

項 目	小学6年		中学3年		成 人	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
1. 興味関心がある	9	8.1%	3	3.0%	225	30.9%
2. どちらかといえば興味関心がある	34	30.6%	17	17.0%	308	42.2%
3. どちらかといえば興味関心がない	30	27.1%	34	34.0%	59	8.1%
4. 興味関心がない	19	17.1%	20	20.0%	24	3.3%
5. わからない	19	17.1%	19	19.0%	51	7.0%
無回答	0	0.0%	7	7.0%	62	8.5%
合 計	111	100.0%	100	100.0%	729	100.0%

食育・地産地消アンケート結果



3 食育・地産地消推進の柱と方向性と施策

(1) 食における健康づくり

生涯を通して健全な心身をつくるとともに規則正しい食習慣や食を通じて得られる様々な能力を身につけることを目指していきます。

◆乳幼児期から高齢期に至るまで世代に応じた食育を推進する

取 組 内 容		関連する主な事業
家庭	①早寝早起きをして、毎日朝ごはんを食べる習慣の形成を促します。 ②米を中心に、野菜、肉・魚など多様な副食からなる日本型食生活の実践を促します。 【具体的取組】 ・幼稚園・保育園、学校等の配布物を活用した栄養や食生活に関する正しい情報の会得及び実践 ・健康相談、栄養相談への参加	【教育機関】 ・栄養教諭による小中学校訪問 ・給食だよりの配布 ・幼稚園だよりの配布 ・幼稚園保育参観と合わせた食育事業の実施
教育機関	①栄養のバランスが取れた献立による給食の提供による食育を推進していきます。 【具体的取組】 ・栄養教諭による小中学校訪問時の給食指導や栄養指導 ・小中学校の保護者向けに給食だよりによる食育推進 ・納入業者や保護者等に対する給食試食会の実施	【行政】 ・パパママ教室の開催 ・もぐもぐごっくん教室（離乳食）の開催 ・保育園給食献立表の配布 ・保育園だよりの配布 ・保育園給食料理展示 ・保育園給食試食会の実施（クリスマス会、手作りおやつ等） ・健康と福祉のフェスティバルの開催
地域	①ボランティア団体等による食育を推進していきます。 【具体的取組】 ・食生活改善推進員（※13）による各地区伝達講習会の開催 ・食生活改善推進員による幼稚園・保育園への食育事業の実施	
行政	①ボランティア団体等の食育活動を支援していきます。 ②栄養や食生活に関する正しい情報を提供していきます。 【具体的取組】 ・食生活改善推進員の養成及び活動や取り組みに対する支援 ・保育園カミカミ献立実施 ・保育園給食試食会の実施 ・社会福祉協議会事業とのタイアップ事業	・男の料理教室の開催 ・单身老人（はつらつ）料理教室の開催 ・各種健康相談・栄養相談 ・食生活改善推進員の育成 ・健康座談会の開催

(2) 地産地消と安全・安心な食

農産物の生産段階におけるリスク管理や衛生管理、農薬の適正な使用管理による安全・安心な農産物の生産を推進するとともに、生産者と消費者と間の「顔が見える関係づくり」などによる信頼関係のもと安全・安心な食の実現を目指します。

◆地産地消について住民に広く周知し、安全・安心な食を推進する

取 組 内 容		関連する主な事業
家庭	①地場産の食材に興味関心を持ち、日々の食卓において地元野菜を取り入れることを推進します。 ②主体的な判断により食品を選択できる消費者を育てていきます。 【具体的取組】 ・食の安全安心に関する情報の正しい理解と情報の会得	【教育機関】 ・学校給食だよりの配布 ・給食時間のお昼の放送での生産者の紹介 ・生産者の顔写真入り紹介資料の作成と各小中学校への掲示 ・地産地消給食の実施 【行政】 ・農業用使用済プラスチック等回収支援事業 ・エコファーマー（※14）認定取得制度 ・村山特産野菜料理教室の開催 ・保育園給食献立表の配布 ・保育園だよりの配布 ・保育園給食料理展示
教育機関	①学校給食関係者と生産者と連携を図り、地場産物利用の拡大を進めていきます。 ②地場産農産物が学校給食で利用される機会に合わせて生産者と交流会を実施し、栽培の苦労や農業の大切さなどについて学びます。 【具体的取組】 ・給食食材納入業者を招き、交流を深め、連携・協力体制を構築する給食試食会の実施 ・学校給食による地産地消の推進 ・生産者と児童との交流給食の実施	
地域	①地場産農産物を地域全体で消費するとともに、地産地消の拡大を図っていきます。 【具体的取組】 ・食生活改善推進員による村山特産野菜料理教室の開催	
生産者等	①食の安全・安心につながる農産物の生産を推進していきます。 【具体的取組】 ・生産マニュアルや防除基準等に基づいた肥料と農薬の安全使用の徹底 ・産直における生産者情報やレシピなどの掲示	
行政	①安全・安心な農産物や農産加工品の情報提供を推進していきます。 ②旬の地場産野菜や果物を学校給食へ導入することを推進していきます。 【具体的取組】 ・産地表示や栄養成分表示など食品表示を正しく理解するための情報提供 ・食育・地産地消推進協議会から学校給食に旬の果物のプレゼント	

(3) 食文化の継承

食文化についてイベントや広報誌等により情報を発信していくとともに、学校や幼稚園、保育園の給食に郷土料理や行事食を取り入れるなど若い世代にも受け入れられるような取組みを推進していきます。

◆地元の食文化を継承する

取 組 内 容		関連する主な事業
家庭	①郷土料理や行事食を家庭料理に取り入れ、郷土愛を育んでいきます。 【具体的取組】 ・郷土料理の由来などを学ぶとともに、作る機会や食べる機会を増やす	【教育機関】 ・給食だよりの配布 ・特別献立の実施（幼稚園・小中学校） （郷土食、行事食） 【行政】 ・保育園だよりの配布 ・保育園行事食の実施 ・保育園給食料理展示 ・元祖芋煮会の開催
教育機関	①学校給食献立へ郷土料理等を取り入れ、料理の由来や食材などを紹介します。 【具体的取組】 ・郷土料理や地域の行事食等、季節食材を利用した給食の拡充。（昼の放送や給食だより等による啓蒙）	
地域	①郷土の食文化を未来に伝えるべきものとして、地域に伝承していきます。 【具体的取組】 ・食生活改善推進員等による芋棒煮の普及	
行政	①保育園給食献立へ郷土料理等を取り入れ、料理の由来や食材などを紹介します。 【具体的取組】 ・郷土料理や地域の行事食等、季節食材を利用した給食の拡充（園だより等による啓蒙）	

(4) 食を楽しみ、食に感謝する

食べ物や料理を「美味しい」と感じ、楽しみながら食事することは、健やかな心の成長においても重要なことです。また、食卓での一家団欒を通じて思いやりの心を育みます。

◆食育について住民に広く周知し、食を通じた思いやりの心と感謝の気持ちを育む

取 組 内 容		関連する主な事業
家庭	①食事のあいさつやマナーを習得し、食べようとする意欲、料理を作る力など「食」に対する興味関心を育てます。 【具体的取組】 ・「いただきます」や「ごちそうさま」などの食事時のあいさつの習慣化	【教育機関】 ・学校給食だよりの配布 ・バイキング給食の実施 ・幼稚園野菜栽培の実施 ・幼稚園で収穫した野菜の調理と試食 【行政】 ・保育園だよりの配布 ・保育園給食料理展示 ・保育園イベント給食の実施（レストラン、バイキング等） ・保育園給食試食会の実施（クリスマス会、手作りおやつ等） ・保育園野菜栽培の実施 ・パパママ教室の開催 ・もぐもぐごっくん教室（離乳食）の開催 ・農作業等の体験学習 ・地産地消交流給食
教育機関	①自然の恩恵や食に関わる人々への理解を深め、食に対する感謝の心を育んでいきます。 【具体的取組】 ・1月の給食記念日にあわせ「心を育む学校給食週間」の取組みを通して給食の歴史を学び、「食べること」への感謝の気持ちの育成 ・給食を通じて、食事のあいさつ、食事マナー、栄養バランスなどの食育指導 ・6月の食育月間に合わせた食育の取組み	
行政	①食育に関する情報を提供します 【具体的取組】 ・保育園、母子保健事業等を通じた情報の提供	

(5) 6次産業化の推進

地場産農産物を活用し、新たな付加価値を生み出す6次産業化（※15）を推進していきます。

◆地域の個性を活かした6次産業化を推進する

取 組 内 容		関連する主な事業
生産者等	①農産物や地域資源を活用した商品価値を高める取組 みを推進していきます。 【具体的取組】 ・補助事業等を活用した地域特産品の開発	【行政】 ・農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業
行政	①地場産農産物を活用した新たな加工品の商品化に向 け支援していきます。 ②地場産農産物や加工品を町内外へ情報発信し、消費拡 大を図ります。 【具体的取組】 ・補助事業等による支援 ・ホームページ等による情報の発信	

4 食育・地産地消の目標

(1) 重点目標

- ① 食育・地産地消の大切さを広く住民に広める
- ② 朝食の摂取率の維持に努め、主食・主菜・副菜をバランスよく食べることを推進する
- ③ 地場産農産物の消費拡大と、地場産農産物を活用した加工品の商品化を推進する

(2) 中山町食育・地産地消推進計画の数値目標

本計画を着実に推進し、目標とする施策を実現するため成果項目と数値目標を設定します。

項 目	現状値（２５年度）	目標値（３０年度）
食育の言葉も意味も知っている人の割合	小学６年 39.6% 中学３年 33.0% 大人 57.1%	70%以上 70%以上 70%以上
地産地消の言葉も意味も知っている人の割合	小学６年 32.4% 中学３年 61.0% 大人 79.0%	70%以上 70%以上 85%以上
朝食を毎日食べている人の割合	小学６年 93.7% 中学３年 94.0% 大人 93.0%	維 持
ごはん、パンなどの主食とおかずを食べる割合	小学６年 78.4% 中学３年 77.6% 大人 84.7%	80%以上 80%以上 85%以上
学校給食食材の町産農産物の使用割合 (重量ベース)	13.6%	18%
環境保全農業に取り組む農業者 (エコファーマー認定取得農業者)	20 人	30 人

※学校給食食材の地場産農産物の使用割合は、H24 学校給食地場産農産物利用調査による

※その他の数値は、H25 中山町食育・地産地消アンケート調査結果による

5 資料

(1) 中山町でとれる主な農産物

●野菜

野 菜	学校給食で使 用している	収穫時期	野 菜	学校給食で使 用している	収穫時期
紅菜苔	○	1～2月	オクラ	○	7～9月
春菊	○	1～4月	さやいんげん	○	7～9月
つぼみな	○	2月	おかひじき	○	7～9月
ほうれん草	○	5～6月 11～12月	ねぎ	○	7～12月
五月菜	○	3～4月	小豆		8～9月
玉ねぎ	○	6～7月	かぼちゃ		8～9月
アスパラガス	○	5～6月	里芋	○	9～11月
人参	○	6～7月 11～12月	青菜		10～12月
レタス		6～7月	食用菊		10～11月
メロン		6～8月	そば		10～11月
とうもろこし	○	6～8月	ブロッコリー	○	10～12月
にら	○	6～10月	ウマツコリー	○	10～12月
トマト		6～11月	水菜	○	10～12月
枝豆	○	7月	アスパラ菜	○	10～12月
じゃがいも	○	7～8月	キャベツ	○	11月
きゅうり	○	7～8月	大根	○	11～12月
なす	○	7～9月	かぶ		11～12月
ピーマン		7～9月	白菜	○	11～12月
すいか		7～8月	小松菜	○	周年
夕顔	○	7～8月			

●果物

果 樹	学校給食で使 用している	収穫時期	果 樹	学校給食で使 用している	収穫時期
さくらんぼ	○	6～7月	日本なし		9～11月
すもも	○	7～9月	りんご	○	10～12月
もも		8～9月	柿		10～12月
ぶどう	○	8～9月	西洋なし		10～12月

※学校給食での使用は、収穫時期以外で使用している農産物もあります。

(2) 食育・地産地消アンケート調査の概要

①調査目的

町民の食生活や地場産品の利用等に関する意識と実態を把握し、中山町食育・地産地消推進計画の策定及び食育・地産地消計画に関する施策の参考とする。

②調査時期

平成25年7月～9月

③回収結果

小学校6年・中学校3年生	214人（うち、学年不明1名、学年・性別不明2名）	
成人	729人	内訳：乳幼児健診の保護者 52人
		総合検診受診者（20歳～） 453人
		ドッグ受診者（40歳～74歳） 224人

問3 「地産地消」という言葉や意味を知っていますか。

- 1 言葉も意味も知っている 2 言葉は知っているが、意味は知らない
- 3 言葉も意味も知らない

問4 「地産地消」に興味・関心がありますか。

- 1 興味・関心がある 2 どちらかといえば興味・関心がある
- 3 どちらかといえば興味・関心がない 4 興味・関心がない
- 5 わからない

問4－1 問4で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

「地産地消」について、どんなことに興味・関心がありますか。

当てはまる項目に○をつけてください。

- 1 食料を外国からの輸入に頼らず、自給自足を目指すこと
- 2 自然環境に合った食べ物の生産が大切であること
- 3 安全・安心な食べ物を食べることができること
- 4 地元の食べ物やしきたりを受け継いでいくこと
- 5 農作物を作る人と食べる人の間の交流や信頼が重要であること
- 6 その他（ ）

問5 「食育」という言葉や意味を知っていますか。

- 1 言葉も意味も知っている 2 言葉は知っているが、意味は知らない
- 3 言葉も意味も知らない

問6 「食育」に興味・関心がありますか。

- 1 興味・関心がある 2 どちらかといえば興味・関心がある
- 3 どちらかといえば興味・関心がない 4 興味・関心がない
- 5 わからない

問6－1 問6で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

「食育」について、どんなことに興味・関心がありますか。

当てはまる項目に○をつけてください。

- 1 家族と楽しく食事をする
- 2 食品を選ぶ力や食事準備に必要な知識と技術を身につけること
- 3 栄養バランスの取れた食事を3食（朝、昼、晩）きちんと食べること
- 4 がんや糖尿病などの病気にならない健康な体をつくること
- 5 食べ物に対する感謝の気持ちを大切にすること
- 6 太りすぎややせすぎをなくし健康を守る
- 7 その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

3 一人で食べる 4 食べない 5 その他 ()

(夕食) 1 家族全員そろって食べる 2 家族のどれかと食べる
 3 一人で食べる 4 食べない 5 その他 ()

問2-1 問2で「3」に○をつけた方におたずねします。

朝食や夕食を一人で食べている理由はなんですか。

1 家族と食事の時間が合わないから 2 自分の部屋で食べているから
3 1人暮らしだから 4 その他 ()

問3 メタボリックシンドローム（内臓肥満型症候群）という言葉やその意味を知っていますか。

1 言葉も意味も知っている 2 言葉も意味もだいたい知っている
3 言葉は知っているが、意味は知らない 4 言葉も意味もしらない

問4 毎日野菜を食べていますか。

1 1日3回食べる 2 1日2回食べる
3 1日1回食べる 4 ほとんど食べない

問4-1 問4で「1～3」に○をつけた方におたずねします。

地元の野菜を使っていますか。(複数回答)

1 家庭で野菜を作っている 2 近所の方からいただいている
3 スーパー等で購入している 4 直売所で購入している
5 産地を気にせず購入している 6 わからない
7 その他 ()

問5 健全な食生活を実践するために、「食事バランスガイド」を参考にしていますか。

1 いつも参考にして実践している
2 時々参考にして実践している
3 「食事バランスガイド」は知っているが、参考にすることがない
4 「食事バランスガイド」を知らない

問6 「地産地消」という言葉や意味を知っていますか。

1 言葉も意味も知っている 2 言葉は知っているが、意味は知らない
3 言葉も意味も知らない

問7 「地産地消」に興味・関心がありますか。

1 興味・関心がある 2 どちらかといえば興味・関心がある
3 どちらかといえば興味・関心がない 4 興味・関心がない
5 わからない

問7-1 問7で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

「地産地消」について、どんなことに興味・関心がありますか。(複数回答)

- 1 食料を外国からの輸入に頼らず、自給自足を目指すこと
- 2 自然環境に合った食べ物の生産が必要であること
- 3 安全・安心な食べ物を食べることができること
- 4 地元の食べ物やしきたりを受け継いでいくこと
- 5 農作物を作る人と食べる人の間の交流や信頼が重要であること
- 6 その他 ()

問8 食材を購入する際、重視していることはありますか。(2つ選択)

- 1 産地 2 値段 3 鮮度(消費期限・賞味期限)
- 4 旬のもの 5 無添加の有無 6 特に気にしていない
- 7 その他 ()

問9 郷土料理や伝統食を家庭の食卓に取り入れていますか。

- 1 正月料理などの行事食の際はもとより、日常的にも取り入れている
- 2 購入する、もらうなどして、取り入れている
- 3 取り入れたいが、作り方がわからない
- 4 取り入れていない
- 5 その他 ()

問10 「食育」という言葉や意味を知っていますか。

- 1 言葉も意味も知っている 2 言葉は知っているが、意味は知らない
- 3 言葉も意味も知らない

問11 「食育」に興味・関心がありますか。

- 1 興味・関心がある 2 どちらかといえば興味・関心がある
- 3 どちらかといえば興味・関心がない 4 興味・関心がない
- 5 わからない

問11-1 問11で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

「食育」について、どんなことに興味・関心がありますか。(複数回答)

- 1 家族と楽しく食事をする
- 2 食品を選ぶ力や食事準備に必要な知識と技術を身につけること
- 3 栄養バランスの取れた食事を3食(朝、昼、晩)きちんと食べること
- 4 がんや糖尿病などの病気にならない健康な体をつくること
- 5 食べ物に対する感謝の気持ちを大切にすること
- 6 取りすぎややせすぎをなくし健康を守ること
- 7 その他 ()

ご協力ありがとうございました。

(3) 山形県食育・地産地消推進計画における数値目標

項 目		数値目標	
		現況値	目標値（27年度）
1	子どもの朝食の欠食率		
	小学校6年生 (全く朝食を食べていない児童)	8.4% (0.5%)	半減 (0.0%)
	中学校3年生 (全く朝食を食べていない生徒)	13.0% (0.7%)	半減 (0.0%)
2	特定健康診査実施率 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）に着目した健康診査を受けた人の割合（40～70歳対象）	43.3%	70%
3	食の安全・安心に関するリスクコミュニケーション (意見交換会)の参加者数	2,457人 (5年間延べ人数)	2,600人 (5年間延べ人数)
4	んまい！山形農と食の応援隊など食育ボランティアの活動延べ人数	636人 (H17～H21の延べ人数)	1,200人 (5年間延べ人数)
5	学校給食における県産野菜の使用割合	32.3%	現況値より5%増
6	県産農林水産物を活用している老人福祉施設等の割合	27.9%	56%以上
7	直売所における販売額	約59億円	約79億円
8	地場産コーナーを設置している量販店（店舗）の割合	70.7%	80%以上
9	地産地消に協力する店舗の数	414店舗	800店舗
10	グリーン・ツーリズム交流人口	788万人	953万人
11	市町村における食育推進計画の策定	37.1%	100%

(4) 関係用語

※1	ライフスタイル	生活の様式・営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方。
※2	中食	惣菜やコンビニ弁当などの調理済み食品を自宅で作ること。
※3	食育	「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」こと。
※4	地産地消	地域で作られた農産物・水産物を、その地域で消費すること。
※5	主食	米・パン・めん類などの穀類で、主として糖質性エネルギーの供給源になる。
※6	メタボリックシンドローム	肥満、脂質異常、高血糖、高血圧、といった動脈硬化の危険因子をいくつも併せもった状態。
※7	生活習慣病	食生活や飲酒、運動不足などの生活習慣との関係が大きい病気のこと、悪性新生物、心疾患をはじめ、糖尿病、高血圧なども含まれる。
※8	BSE（牛海綿状脳症）	牛の脳の組織にスポンジ状の変化を起こし、起立不能等の症状を示す遅発性かつ悪性の中樞神経系の疾病。
※9	鳥インフルエンザ	A型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥の病気。鳥インフルエンザウイルスの中には高病原性鳥インフルエンザがあり、ニワトリが毒性タイプのウイルスに感染すると、その多くが死んでしまう。
※10	食料自給率	国内の食料消費が、国内の農業生産でどの程度賄われているかを示す指標。 カロリーベース総合食料自給率＝1人1日当たり国産供給熱量／1人1日当たり供給熱量。
※11	郷土料理	その地域の産品を主体とし、その地域で発展した調理方法で作られた料理。
※12	食事バランスガイド	望ましい食生活について、1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいのかの目安を分かりやすくイラストで示したもの。
※13	食生活改善推進員	食生活の改善を通じた疾病の予防や健康づくりを目的とし、地域住民への望ましい食生活の普及を実践する健康づくりボランティア。
※14	エコファーマー	堆肥等による土づくりと化学肥料・化学合成農薬の低減を一体的に行う農業生産方式の導入計画について、知事の認定を受けた農業者。
※15	6次産業化	1次産業である農林水産業が、農林水産業の生産だけにとどまらず、それを原料とした加工食品の製造・販売や観光農園のような地域資源を生かしたサービスなど、2次産業や3次産業と連携した取組み。

中山町食育・地産地消推進協議会設置規約

(設置)

第1条 この規約は、中山町の総合的な食育及び地産地消の推進を図るため、中山町食育・地産地消推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 協議会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 食育及び地産地消推進のための計画策定に関すること
- (2) 食育及び地産地消に関する情報の収集及び周知に関すること
- (3) その他、食育及び地産地消の推進のため必要と認められること

(組織)

第3条 協議会の委員は、12名以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 農業関係者
- (2) 農産物の加工、流通及び販売関係者
- (3) 食生活改善団体を代表する者
- (4) 消費者団体を代表する者
- (5) 教育関係者
- (6) 学識経験者
- (7) 行政関係者
- (8) その他町長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員の再任は、妨げない。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長には中山町副町長を充て、副会長は会長の指名により選出する。
- 3 会長は協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことはできない。
- 3 会長は、会議の運営上必要があると認める場合、議事に関係のある者を出席させ、意見を求めることができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、産業振興課において処理する。

(その他)

第8条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、会長が会議に諮って決める。

附 則

(施行期日)

この規約は、平成25年6月1日から施行する。

中山町食育・地産地消推進協議会

【委員】

団 体 名	委 員	備 考
中山町	副 町 長 森 谷 喜代弘	会 長
中山町農業委員会	農政常任委員長 渡 辺 桂 司	
山形農業協同組合北部営農センター	センター長 中 川 弘 幸	
ふきちゃん本舗	代 表 高 橋 富貴子	
中山町情報・物産館〇っと	店 長 大 坪 義 行	
中山町食生活改善推進協議会	会 長 小 関 日出子	
中山町消費生活研究会	会 長 秋 葉 惇 子	副会長
中山町小中学校長会	会 長 大 場 光 祐	
なかやま保育園	園 長 鈴 木 真由美	
ながさき幼稚園	園 長 小 林 聡 子	
中山町商工会	理 事 黒 沼 望	
山形県栄養士会	副 会 長 西 村 恵美子	